高等学校芸術科(音楽)における鑑賞の能力を高めるための指導法について

－根拠をもって自分なりに批評できる力の育成を通して－

竹　嶋　利　和

高等学校芸術科（音楽）の鑑賞分野の指導は、様々な音楽に積極的に触れることで、生徒たちの感性を豊かにしたり、音楽を愛好する心情を育てたりするなど、音楽教育において重要な分野の一つである。

本研究では、根拠をもって自分なりに批評できる力を育成することで、鑑賞の能力を高めることができるのではないかと考えた。そこで、クラシック音楽やポピュラー音楽、日本の伝統芸能から選択した教材曲を用い、段階的に知覚（音楽を聴覚で聴き取り、その音の特性を理解すること）と感受（イメージを浮かべながら美しさを感じること）を深めていくためのワークシートを作成し、授業実践を行ってその効果を検証した。

その結果、多くの生徒が音楽用語を用い、音楽の諸要素と曲の雰囲気や味わいを関連付けて表現することができるようになるなど、鑑賞の能力を高める上で効果があることが分かった。

〈キーワード〉　鑑賞の能力、批評、ワークシート、プレゼンテーションソフトの活用

Ⅰ　主題設定の理由

「鑑賞の能力」とは、音楽のよさや美しさを感じ取る能力のことであり、言い換えると、音楽の諸要素の働きからその音楽の固有の雰囲気、気分や味わいを感じ取る能力のことである。

音楽のよさや美しさを感じ取ることは、個人的・主観的・内面的な行為である。そのため、「鑑賞」の指導や評価は難しく、実際の指導場面でも敬遠される傾向にある。しかし、音楽活動全般において創造的・主体的な活動をするためには、多様な音楽を積極的に鑑賞し、「鑑賞の能力」を高め、それらのよさや美しさを充分に感じ取ることが重要である。

「鑑賞の能力」は、ただ漫然と音楽を聴いているだけでは高めることができない。2008年３月に告示された中学校学習指導要領音楽科の「B鑑賞」においては「根拠をもって批評する活動の充実」が改訂のポイントの一つとなっている。また、2008年12月に公表された高等学校学習指導要領改訂案の中では、「音楽を形づくっている要素の知覚・感受」が指導事項として新設され、「言語活動の充実（根拠をもって批評する活動の充実)」が示されている。このように、音楽の諸要素の働きによって感じ取った雰囲気や曲想を言語化し、根拠をもって自分なりに批評する活動を通してこそ、「鑑賞の能力」を高めることができると考える。

そこで、本研究では、中学校と高等学校の指導のポイントを関連させ、「根拠をもって自分なりに批評できる力を育成すること」に焦点を当てる。そして、そのための「ワークシート」を作成して、段階的に活用することで根拠をもって自分なりに批評できる力を育成し、効果的に「鑑賞の能力」を高めることができるのではないかと考え、本主題を設定した。

Ⅱ　研究の目標

鑑賞の能力を高めるため、生徒個々の興味・関心を引き出すような、分かりやすく効果的な資料作成と教材開発を通して、根拠をもって批評できる力を育成するための指導について考察する。

Ⅲ　研究の方法

１　実践研究１

(1)　事前アンケートによる意識および実態の調査と分析

音楽の授業全般ならびに鑑賞に関する意識および実態を調査して、指導計画を立てるための資料とする。

(2)　指導計画および授業内容の検討

音楽用語や語彙の理解ならびに批評することに関心をもたせられるような指導計画を作成する。また、生徒の興味・関心の高い身近な音楽(ポピュラー音楽)を積極的に取り入れることで、より主体的な活動に結びつける。

学習指導においては、プレゼンテーションソフトを活用して分かりやすいスライド資料を作成することにより、生徒の興味・関心を高める。また、各自の考えや感想を整理するための効果的なワークシート作成を行う。

(3)　授業実践

第１次…キャッチコピー作成、日本の童謡によく似た旋律をもつクラシック曲の鑑賞

第２次…批評文作成の前段階として①感想文や紹介文をまとめる。②音楽用語や語彙を理解する。

第３次…音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取り、感じ取ったことを音楽用語や語彙を用いて根拠をもって自分なりに批評する。

(4)　授業実践による検証、考察

授業実践後、一連の学習過程や授業の手立てが身に付けたい力の育成にとって有効であったかを、指導過程の中でのワークシートを通して考察する。

２　実践研究２

(1)　事前アンケートによる意識および実態の調査と分析

鑑賞に関する意識および実態を調査して、指導計画を立てるための資料とする。

(2)　指導計画および授業内容の検討

実践研究２では主にＭＤやＤＶＤ、ＶＴＲなどの視聴覚資料から効果的なものを精選して活用する。また、音楽の諸要素の働きに気付かせるようなワークシート作成を行う。

(3)　授業実践

第１次･･･「日本音楽史」～三味線音楽を中心に～（地歌、長唄、義太夫、常磐津、清元）

第２次･･･「義太夫節」～太夫と三味線の表現～

第３次･･･「文楽」における義太夫節の表現

(4)　授業実践による検証、考察

授業実践後、一連の学習過程や授業の手立てが身に付けたい力の育成にとって有効であったかを、指導過程の中でのワークシートや授業後の感想文などを通して考察する。

Ⅳ　研究の内容

１　実践研究１

対象：福井県立丹生高等学校第１学年２講座54名

授業者：坂井佳代教諭

実施時期：平成19年９月

(1)　アンケートによる意識および実態調査の結果と考察

①　音楽の授業の中ではどの活動が好きですか、また嫌いな活動は何ですか（図１）。

半数以上の生徒が「鑑賞」を好きと答え、約４割の生徒が「歌唱」と「器楽」を好きと答えてい

る。逆に４割の生徒が「創作」と「理論」を嫌いと答え、約３割の生徒が「歌唱」や「合唱」を嫌いと答えている。「鑑賞」が嫌いと答えた生徒は１割未満である。

図１　音楽授業の中での活動の好み

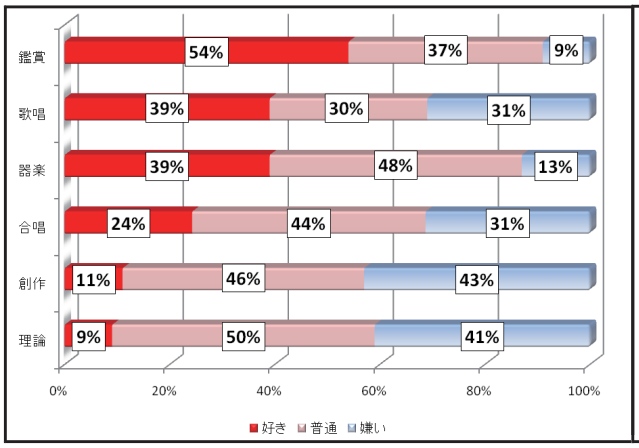
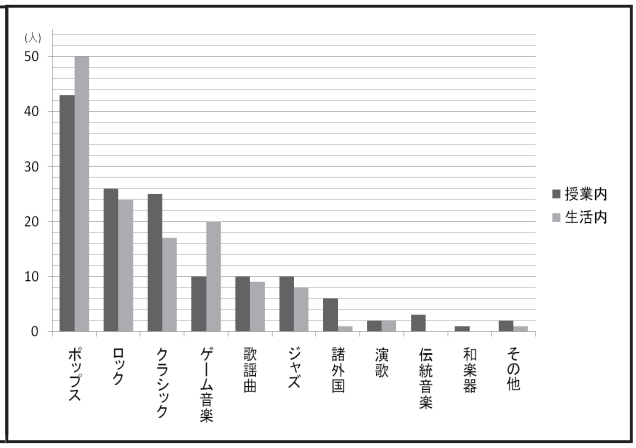


図２　鑑賞する音楽の好み



②　これまで（小・中・高）の授業および生活の中で聴いた音楽の中で、どの音楽が好きですか（図２）。

授業内においても生活内においても、「ポップス」と答えた生徒が最も多い。授業内においては「ポップス」に次いで「ロック」「クラシック」と答えた生徒が多く、生活内では「ロック」「ゲーム音楽」と答えた生徒が多い。

③　あなたは音楽を初めて聴くとき、どんなところに注意して聴きますか(図３)。

「歌詞の内容」と答えた生徒が最も多く、次いで「旋律」「リズム」「音色」「テンポ」と答えた生徒が多い。逆に強弱と答えた生徒は大変少ない。

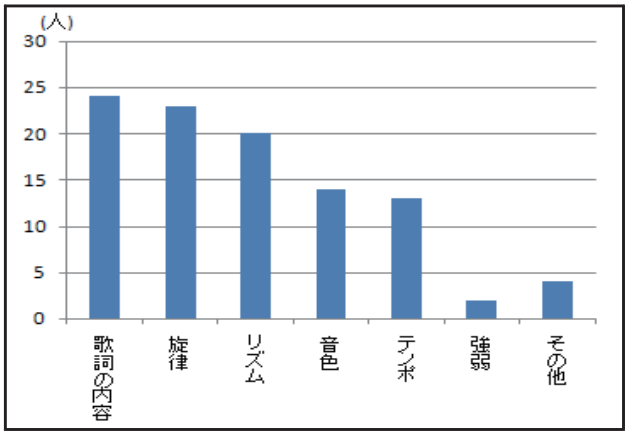


図３　音楽を初めて聴くときのポイント

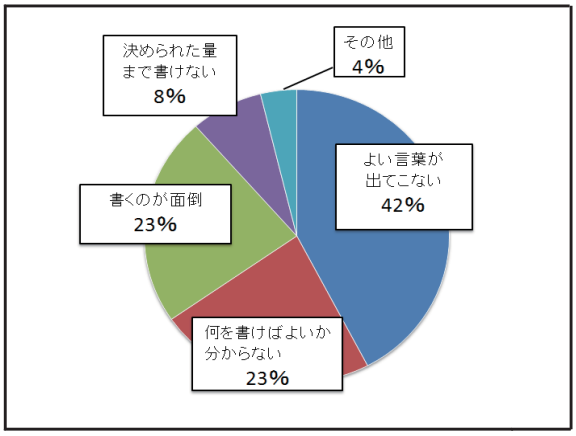


図４　書くことへの抵抗感

④　学習シートなどに文章で記入するとき、困ることはありませんか(図４)。

６割近い生徒が「困ることがある」と答えている。その理由としては「よい言葉が出てこない」「何を書けばよいか分からない」「書くのが面倒」と答えた生徒が多い。

これらの実態を踏まえ、「鑑賞の能力」を高める指導の工夫として、効果的な指導法の考察、適切な教材・資料（ワークシートなど）の作成、ネックになっている問題点の解決などを行うこととした。

(2)指導計画および授業内容

次	ねらい	教材	時	学習活動	評価規準
第1次	〔導入部〕 鑑賞学習に対する興味・関心をもち、旋律の特徴や雰囲気を感じ取らせる。	☆そっくりメロディー（クラシック曲と童謡曲） ☆ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」 （鑑賞済み）	第1時	○日本の童謡とそっくりな旋律が含まれるクラシック曲を聴き、それぞれを聴き分ける。 ○既習のミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」のキャッチコピーを作る。	・旋律の特徴などに関心をもち、意欲的に聴いている。 ・想像力を生かして、作品を言葉で意欲的に表現しようとしている。
第2次	〔感想・紹介文〕 声の特性や音楽の様々な効果をとらえ、これらによる表現の違いを感じ取らせる。また、身近なポップス音楽を用いることで文章で書くことへの抵抗感を和らげる。	☆ポピュラー音楽 ＊平原綾香 「ジュピター」 ＊絢香「三日月」 ＊森山良子 夏川りみ 「涙そうそう」 ＊本田美奈子 「ジュピター」	第2時 第3時	○感想文や紹介文を書く ・紹介文の書き方について教師の説明を聞いて理解する。 ・曲の特徴をとらえ、自分なりに感じたことをワークシートに書く。 ・プリントに示した音楽用語を使って、紹介文を書く。 ・それぞれの歌手の声の特徴や曲想の違いをとらえ、感じ取ったことをワークシートにまとめる。できるだけ批評文に近づける。	・紹介文や批評文について積極的に理解しようとしている。 ・声の特性ならびに音楽にどのような工夫や特徴があるかを知覚している。
第3次	〔批評文〕 作曲者についてや曲の背景を理解した上で、音楽の諸要素と音楽固有の雰囲気や曲想、表現の関連について比較鑑賞を通して感じ取らせる。	☆「木星」 ＊平原綾香 「ジュピター」 /MD ＊管弦楽/DVD	第4時	・曲の作曲された経緯や背景、演奏者についてプレゼンテーションを通して理解する。 ・カバー曲と原曲を比較し、歌詞の有無や演奏形態の違いによるそれぞれの特徴をとらえ感じ取ったことを批評文にする。	・作曲者についてや曲の背景ならびに音楽の諸要素の働きと効果、音楽の特徴など総合的に理解し、楽曲を味わって聴き取っている。

(3)　授業実践

①　導入（第１時）

ア　そっくりメロディー～クラシック曲と童謡曲～（ワークシート１－１）

導入としてクラシックの名曲の旋律内に潜んでいる日本の曲の節を発見することでクラシックに対して興味・関心をもたせる。

実際に取り上げた曲は次のとおりである。

・中田喜直「雪の降る街を」とショパン「幻想曲ヘ短調」
・新井　満「千の風になって」とインストルメンタル「悲しみのソレアード」
・成田為三「浜辺の歌」とヨハン・シュトラウス２世のワルツ「芸術家の生涯」
・作曲者不詳「仰げば尊し」とスコットランド民謡「愛しのアランデールのバラ」
・本居長世「赤い靴」とモーツァルト「きらきら星変奏曲」第８変奏
・中山晋平「証城寺の狸囃子」とベートーヴェン ピアノソナタ「葬送」第４楽章
・中山晋平「シャボン玉」と讃美歌「主われを愛す」
・中山晋平「黄金虫」とアルベニス「スペイン組曲」から「カタルーニャ」
・岡野貞一「春が来た」とＪ．クラーク「トランペット・ヴォランタリー」
・岡野貞一「春の小川」とシベリウス「組曲カレリア」より「バラード」

以上10曲

全曲聴き分けられた生徒はいなかったが、かなり集中して聴いており、クラシックに興味・関心をもたせることができたようである。

イ　既習のミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」のキャッチコピーを作る（ワークシート１－２）。

批評文を書くことへの前段階として、１学期後半に学習したミュージカルのストーリーを基にイメージしたことを短い文章（キャッチコピー）で表現する。

そして、ワークシートを配布し各自で考えたものを三つ記入する。それらを一枚のプリントにして生徒に戻し、その中から投票で優秀作品を選ばせた。

特に人気があったものは次のとおりである。

・家族の絆は国境をもこえた
・歌とともに生きた家族
・家族の絆
・歌と夢と愛と勇気
・天使の歌声
・歌でつながる家族の愛
・歌で作る家族の絆
・音楽はみんなを笑顔にする薬だ!!
・歌はみんなを一つにする
・ほー壊寸前の家族へ…もう一度
・愛の歌
・“思い”が“想い”へ“歌”が“唄”へ
・家族愛～あなたの家族は何でつながっていますか？～
・移り変わる家族愛に、あなたはどこまで耐えられますか??

ワークシート１－１

そっくりメロディー研究室 -sokkuri melody-
～あのクラシックに良く似た日本の歌～

１年　組 ＿＿＿＿＿＿＿＿

これから聴くクラシックの曲の中に日本の童謡のメロディにそっくりな部分があります。
さて、どの曲かを□の中の童謡曲名をから選び（　　）に入れましょう。
最後にクラシックの曲名を言いますから下の番号の（　　）に曲名を書き入れてみましょう。

１（　　）　２（　　）
３（　　）　４（　　）
５（　　）　６（　　）
７（　　）　８（　　）

童謡曲名群

雪の降る町を　シャボン玉　浜辺の歌　黄金虫（ゲンゲムシ）　仰げば尊し
春が来た　赤い靴　春の小川　証城寺（しょうじょうじ）の狸囃子（たぬきばやし）

クラシック曲の曲名を書き入れましょう

１（　　）　２（　　）
３（　　）　４（　　）
５（　　）　６（　　）
７（　　）　８（　　）

ワークシート１－２

1年□組□番 氏名□

「サウンドオブミュージック」の宣伝文（キャッチコピー）を作ろう

このミュージカルを広く、みんなに紹介するとしたら、どのようなキャッチコピーを作りますか。下のサンプルを参考にたくさんの観客が入るような魅力あるキャッチコピーを作ろう。

その１，「　　」
その２，「　　」
その３，「　　」

映画のキャッチコピーサンプル色々

■サスペリア(1977)　「決して、ひとりでは見ないでください。」
■エイリアン(1979)　「宇宙では、あなたの悲鳴は誰にも聞こえない」
■白昼の死角(1979)　「狼は生きろ、豚は死ね」
■マイ・ビッグ・ファット・ウェディング（2002）　「一生結婚したくない、という人は、観ると危険です。」
■ジャスト・マリッジ(2003)　「Q:問題です。このふたりの笑顔は、あと何秒続くでしょう?」
■グッド・ガール(2004)　「30歳、ディスカウントストア勤務。夫 仕事 友人 － 明日も今日と同じ…」
■迷い婚 －すべての迷える女性たちへ－(2005)　「その愛に、決められる？」
■エイリアン VS. プレデター　(2004)　「どちらが勝っても…人類に未来はない。」
■マリー・アントワネット(2006)　「恋をした、朝まで遊んだ、全世界に見つめられながら。」
■ハウルの動く城(2004)　「ふたりが暮らした。」

② 感想文から紹介文　（第２時）

平原綾香の「ジュピター」の感想文（ワークシート１－３）と本田美奈子の「ジュピター」の紹介文（ワークシート１－４）を書く。

授業で生徒が作成した平原綾香の感想文と本田美奈子の紹介文を表１に示す。

ワークシート１－３

感想文　　１年　　組氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

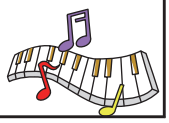
平原綾香「ジュピター」について自分なりに感じたまま感想を書いてみよう。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿



ワークシート１－４

紹介文　　１年　　組　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

自分なりに感じたことを音楽用語や音楽的な言葉を使って文章にしてみよう。（誰かに伝えるつもりで分かりやすく）

写真

本田 美奈子.（ほんだ みなこ、1967 年～2005 年）
1986年2月5日「1986年のマリリン」が大ヒット
1980年代後半を代表するアイドル歌手
1990年代以降は主にミュージカルで活躍
2000年代に入ってからはクラシックとのクロスオーバーに挑戦
2005年1月に急性骨髄性白血病で緊急入院
2005年11月 6 日午前４時38分逝去
2006年７月～2007年６月
「骨髄バンク支援キャンペーン」のCMに起用

「ジュピター」

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

③　音楽用語を使った紹介文(第３時)

森山良子と夏川りみによる「涙そうそう」の比較鑑賞をして、それぞれの紹介文を書く。その際、ワークシートには、音楽的な特徴をあらわす様々な用語を「音楽基礎用語集」として音楽用語に触れさせる（ワークシート１－５）。

授業で生徒が作成した感想文と紹介文を表２に示す。

ワークシート１－５

比較鑑賞　　1年　組 氏名 ＿＿＿＿＿＿＿＿

「涙そうそう」

2001(H13)年、歌手の森山良子が、若くして他界した兄を思って書いた詩に、同郷の旧友で歌手トリオのBEGINが曲を付けたものです。夏川りみが歌ってヒット曲となりました。
森山良子さん、BEGIN も歌っています。"涙(なだ)そうそう"とは、沖縄の方言で「涙がとめどなく流れる、涙ボロボロ」の意味だそうです。

作詞　森山 良子　　作曲　BEGIN

（涙そうそう　歌詞）

森山良子さんと夏川りみさんの歌声を聞いてそれぞれ速度・強弱・音色・曲想の観点から自分なりに感じたことを文章で表そう。

	森 山 良 子	夏 川 り み
速度		
強弱		
音色		
曲想		
その他		

音楽基礎用語集

速度
きわめて速く
重々しくゆるやかに
幅広くゆるやかに
ラルゴよりやや速く
ゆるやかに
ゆるやかに
ゆっくり歩くような速さで
アンダンテよりやや速く
中ぐらいの速さで
ほどよく速く
やや速く
速く
活発に速く
急速に

強弱
だんだん弱く
とても弱く
弱く
少し弱く
少し強く
強く
とても強く
だんだん強く
だんだん弱く

曲想の用語
重く
激しく
決然と
生き生きと
動きをつけて
情熱的に
熱情を込めて
華やかに
表情豊かに
愛らしく
甘く柔らかに
なめらかに
軽く

音色
鋭い　鈍い
鮮やかな　ぼけた
はっきりした　明るい
暗い　固い
柔らかい　派手な
地味な　澄んだ
濁った　美しい
汚い　滑らかな
ざらざらした　協和した
不協和な　迫力のある
物足りない　豊かな
貧弱な　力強い
弱弱しい

④　G．ホルスト作曲　組曲「惑星」より『木星』の批評文（第４時）

平原綾香の「ジュピター」が木星の第４主題部のカバー曲であることからこの曲を選曲した。指導においては、プレゼンテーションソフトを活用したスライドによる教材提示を行い、効率よく指

導できるように工夫した。

プレゼンテーションの内容は次のとおりである。

ⅰ　作曲者や背景について説明する

ⅱ　楽曲分析をする（組曲７曲中の『木星』－四つの主題－４曲目「ジュピター」の原曲）

ⅲ　四つの各主題を取り上げ、特徴や雰囲気をつかませる。

ⅳ　第４主題と平原綾香の「ジュピター」の違いや特徴を聴き取らせる。

ⅴ　楽譜に書かれている強弱記号や音楽用語、楽器の音色によって音楽のイメージや雰囲気をどのように特徴付け、表現されるかその関連を感じ取らせる。批評文に書く（ワークシート１－６）。

ワークシート１－６

批評文

１年　　組　氏名（　　）

組曲「惑星」より『木星(ジュピター)』について、これまで学習したことを総合して自分なりに感じたことを下記のキーワードを使ってまとめてみよう。

〈キーワード〉

音色、リズム、旋律、速度、強弱

第１主題、第２主題、第３主題、第４主題

授業で生徒が作成した批評文を表３に示す。

(4)　授業実践による検証・考察

表１　生徒が作成した「ワークシート１－３」より

	平原綾香（感想文）	本田美奈子（紹介文）
生徒Ａ	音の出る幅が広い。エコーがかかっているみたいで綺麗。	声が平原綾香より高く、メロディーが違う感じ。歌詞の内容が違う。
生徒Ｂ	響き渡るような歌声。力強いところから繊細に歌っているところがある。	平原綾香の低く響き渡る感じと違って声が高く澄んだ感じ。
生徒Ｃ	おっとりとした感じの曲でとても落ち着く。	なめらかだが声が高いのではっきりした感じがする。
生徒Ｄ	歌に感情がこもっている。聴いている人を包み込むような感じ。	生き生き歌っているが、音色は鈍い感じがした。
生徒Ｅ	宇宙の広さ、神秘的。	平原綾香のものと歌詞が違うので違和感があった。声が高くはっきりしているので耳に残った。
生徒Ｆ	ゆったりした感じ。こもった感じの声。	幅広くゆったりとしている。熱情を込めているがなめらかで柔らかい感じ。
生徒Ｇ	教会で歌っているような感じ。	派手ではないが情熱的で生き生きとしている。

平原綾香の感想文では「･･･ような」「･･･な感じ」といった感じたそのままの雰囲気を表していたが、本田美奈子の紹介文では平原綾香の曲との比較から曲想や音色（声質）の違いを表すようになった。

表２　生徒が作成した「ワークシート１－５」より

	森山　良子	夏川　りみ
生徒Ａ	幅広く緩やかな感じ、強弱の変化が大きい、明るく力強い音色、決然と熱情を込めて、表情豊か	歩くような速さ、強弱が大きい、後半だんだん強い、澄んだ迫力のある音色、生き生きとして軽くなめらか
生徒Ｂ	ゆっくり歩くような速さ、全体的に少し弱い、柔らかい音色、静かで温かい感じ、優しい感じ	緩やかな速度、サビでだんだん強くなる、澄んだ美しい音色、甘く柔らかくなめらか、声が高く響き渡る感じ
生徒Ｃ	ゆるやか、少し弱め、澄んでいてなめらか、ちょっと低めで独特の歌い方	ほどよく早い、サビは少し強め、はっきりかつ澄んでいる、生き生きとしてなめらか、ちょっと高め
生徒Ｄ	ゆっくり歩くような速さ、弱い、ぼけた感じの音色、甘く柔らかい感じ	中くらいの速さ、サビにかけてだんだん強く、美しい音色、愛らしい感じ
生徒Ｅ	ゆっくり歩くような速さ、少し弱め、柔らかく暖かみのある音色、独特な感じ	幅広く緩やか、少し強め、澄んでいて美しい、華やかでなめらか、明るい感じ
生徒Ｆ	重々しく緩やか、だんだん強く、ぼけた感じ、重いけどなめらかな感じ	ほどよく早い、だんだん強く、鮮やかで豊かな音色、甘く柔らかな感じ

生徒Ｇ	ゆっくり歩くような速さ、だんだん強く、ぼやけた音色、甘く柔らかで後半生き生きと、懐かしい感じ	ほどよく速く、時にゆっくりと、強弱の変化大きい、柔らかく豊かな音色、華やかな感じ、沖縄風の三味線が曲の感じとあっていた

生徒がそれぞれ感じ取った雰囲気や曲想に当てはまる言葉を、ワークシートに示された音楽用語集の中から選び出し、それらを並べただけのような文章となった。しかし、音楽用語を知ることは次の段階で曲想と音楽の諸要素を関連づける際に役立ったようである。

表３　生徒が作成した「ワークシート１－６」より

生徒Ａ	第１主題は音が軽やかだけど、合間合間に重いところがある。第２主題は壮大な感じで宇宙っぽい感じでちょっとかわいらしい感じの音もある。第３主題は鈴みたいな音が聞こえてくるかと思ったら、急に迫力があったりしてすごかった。第４主題はゆっくりしてるけど、音が綺麗で迫力がある。サビが強烈で強弱が激しかった。
生徒Ｂ	第１主題は強く、生き生きとして、第２主題に入るとリズミカルに、少し静かな雰囲気になる。第３は３拍子のテンポでリズミカルでかわいらしさがある。第４主題に入ると同じ３拍子でもゆったりしていて壮大で静かな中にも力強さがあり、それがだんだん大きくなっていく。第２・３主題では楽器の音色がかわいらしく、第４では最初は弦楽器の静かな音楽から徐々に管楽器の力強さが加わる。最後はすべての主題が絡み合ってジュピターのすべてを表している。
生徒Ｃ	第１主題はバイオリンから始まる軽やかで明るい感じの音楽。第２主題はリズミカルに様々な楽器で演奏され徐々に音程（音高）が上がっていく。第３主題では始めはゆっくりだが楽器が変わる毎に速くなり、強弱も変わっていた。第４主題ではゆったりと低い音程から始まるが、だんだん高い音の楽器へと連なっていく。第４主題が終わっても第１主題や第３主題が出てきた。
生徒Ｄ	第１主題は曲が弾んでいるような感じで、テンポが速い。バイオリンなどの強弱がはっきりしている。第２主題は始めは小さく、だんだん大きな音になっている。第３主題はテンポがだんだん速くなって、不思議なメロディーが続く。第４主題はメロディーがしっかりしている。とてもゆったりとしたテンポで迫力がある。第４主題が終わっても曲は続いていた。
生徒Ｅ	第１主題で軽快に始まり、第２主題で重くなる。第３主題に移りそうなイメージに、そして急ぎ込むように速くなり、第４主題は壮大になる。だんだん大きくふくらんでいくような感じで神秘性を感じる。
生徒Ｆ	第１主題はとても迫力がある。何かが登場してきそうな感じ。第２主題はテンポが落ち着いていて歩いているような感じ。第３主題は速さの変化が大きい。第４主題はとてもゆったりとした感じ、最後の方はずっしりと重たい感じがした。最後はまとめのような感じだった。
生徒Ｇ	第１主題は軽い感じで飛び跳ねているようだったが、曲の速さとテンポは第２主題の方が大きかった。第３主題は三つ音が重なっていて今までとは違う雰囲気だった。第４主題はとても神秘的な感じだった。

曲想や諸要素に関する語彙を使い、感じ取ったことを具体的に文章で表現するようになった。しかし、曲想と諸要素の関連性の記述が不十分である。

２　実践研究２

対象：福井県立藤島高等学校　第１学年５講座151名

授業者：小森保弘教諭

実施時期：平成20年10月

(1)　アンケートによる意識および実態調査の結果と考察

①　授業で聴いた音楽と生活の中で聴く音楽の好み（図５）。

授業の中ではクラシックを好きと答える生徒が多く、生活の中ではポップスを好きと答える生徒が多かった。また、日本の伝統音楽に関しては好きと答える生徒が少なかった。特に生活の中では皆無である。

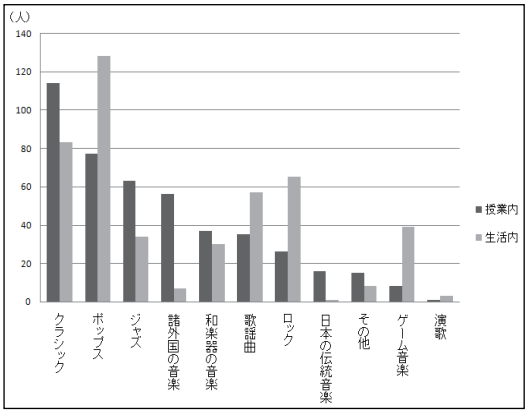


図５　音楽鑑賞の嗜好

②　小・中学校の音楽の授業ならびに芸術鑑賞会で日本の伝統音楽を鑑賞したことがあるか。また、その鑑賞に興味・関心をもったか（図６）。

音楽の授業では９割、芸術鑑賞会では７割の生徒が日本伝統音楽を鑑賞したことがある。その中で、どちらにおいても約６割の生徒が興味・関心を示している。また、逆にどちらも４割程度の生徒は興味を示さなかったことになる。

この４割の生徒が授業実践を通してどのように意識が変容したかについても考察する。

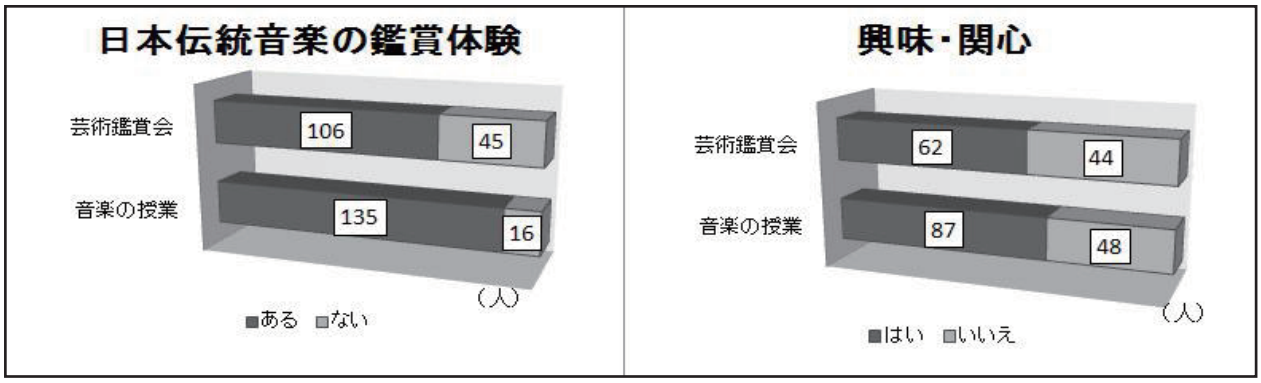


図６　日本伝統音楽の鑑賞体験の有無と興味・関心

(2)　指導計画および授業内容

次	ね ら い	教　　材	時	学 習 活 動	評価規準
第１次	日本音楽の歴史をつかみ、三味線音楽の種類とその音色などの特徴について記述できる。	三味線音楽 ・長唄 ・地歌 ・常磐津節 ・義太夫節	第１時	○日本音楽の歴史についてワークシートに記述する。 ○三味線音楽の種類とその特徴をとらえワークシートに記述する。	日本音楽の歴史や三味線音楽の種類や特徴に関心をもって聴取している。〔ワークシート〕
第２次	義太夫節の歴史を知ると共に太夫と三味線の表現とそれらから作り出される曲想や雰囲気の関連について記述できる。	義太夫節 ・時代物 ・世話物 （新版歌祭文）	第２時	○義太夫節の歴史や特徴についてワークシートに記述する。 ○太夫と三味線の表現について、ワークシートに記述する。	曲節の諸要素と曲想や雰囲気との関連をとらえている。
第３次	文楽の義太夫節の曲節の諸要素と曲想、雰囲気を知覚・感受し、それらを関連付け、太夫と三味線が作り出す曲節の特徴について批評することができる。	文楽 『平家女護島』から 「鬼界ヶ島の段」	第３時	○文楽の歴史について教師の説明を聞きワークシートに記述する。 ○ＤＶＤ「平家女護島から鬼界ヶ島の段」を視聴し、義太夫節の特徴について、曲想と曲節の諸要素を関連させて記述する。	太夫と三味線が作り出す曲節の諸要素と曲想、雰囲気を知覚・感受し、それらを関連付けて批評している。

(3)　授業実践

①　第１次（ワークシート２－１）

・教師の説明を聞いた上で、音楽鑑賞ＤＶＤ「日本の伝統芸能編」の視聴や教科書「ＭＯＵＳＡ」pp. 74-75日本音楽史の説明文より、琵琶と三味線、歌い物と語り物についてまとめる。

・三味線音楽の中からCD音源（編集）より、長唄、義太夫節を聴き取り、それぞれの音楽の特徴（三味線・声）についてまとめる。

②　第２次（ワークシート２－２）

・教師の説明を聞いた上で、音楽鑑賞ＤＶＤ「日本の伝統芸能編」の視聴やＮＨＫ「日本の伝統芸能」ＶＴＲより、義太夫節の歴史と、太夫と三味線の表現についてまとめる。

・ＮＨＫ「日本の伝統芸能」ＶＴＲより、時代物「妹背山女庭訓」と世話物「新版歌祭文」との表現の違い、および太夫と三味線の表現による義太夫節の曲想や雰囲気との関係についてまとめる。

③　第３次（ワークシート２－３）

・鑑賞ＤＶＤの視聴や教師の説明を聞き、文楽の歴史ならびに義太夫節の特徴について曲想と曲節の諸要素を関連させてワークシートにまとめる。

授業で生徒が作成した文章を表４、５、６に示す。

ワークシート２－１

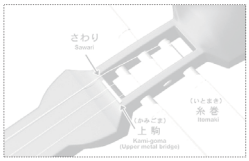
ワークシート１

1.　日本の音楽史を，三味線音楽を中心に整理してみよう。

飛鳥時代 奈良時代	＊　大陸から輸入された音楽とともに，[ア:　　]が伝来。 ＊　仏教の典礼音楽である[イ:　　]も伝来した。
平安時代	＊　貴族社会を中心に，外来文化が日本化される。 ☞　大陸から輸入された[ウ:　　]の制度化 ＊　催馬楽や朗詠，今様，日本語の声明（和讃など）の誕生
鎌倉時代 南北朝時代	＊　宗教儀式的要素のない物語を語る語り物を生む。 ☞　特に平家物語を語る[エ:　　]が流行した。
室町時代	＊　[オ:　　]の大成（観阿弥，世阿弥） ＊　中国の三弦が琉球に伝えられて[カ:　　]となり，さらに琵琶の影響を受けて[キ:　　]となった。
江戸時代	＊　三味線音楽が特に発達した。 ＊　三味線音楽は，歌い物と語り物に大別される。 ☞　[ク:　　]は歌舞伎と結びついて発展した。 ☞　[ケ:　　]は語り物の代表とされる。

平家琵琶

三味線の「さわり」



月　　日（　　）　　1 年　組　番　氏名

2.　歌い物「長唄」と語り物「義太夫節」を聴いて，その違いを感じ取ろう。

No.	この音楽からどんな感じを受けたか？	←その理由		「長唄」「義太夫節」どちらかであるか？
		三味線について（音域・音色・奏法など）	声について（声域・音色・唱法など）	
1				
2				

3.　三味線の音色について整理せよ。
（ア）細棹三味線の音色には，どのような特徴があり，どのような表現効果があるか？

（イ）太棹三味線の音色には，どのような特徴があり，どのような表現効果があるか？

4.　長唄と義太夫節の特徴を誰かに伝えるつもりで説明せよ。
（ア）長唄

（イ）義太夫節

ワークシート２－２

ワークシート２

義太夫節についてさらに深めよう

1.　次の[　　]に適語を入れて文を完成しよう。（※は漢字と読み仮名の両方を記入）

○ 平曲の語りや琵琶の伴奏をお手本に創出された、三味線を伴奏に物語を語る語り物のことを、[※ア:　　]という。[ア]は次第に人形芝居や歌舞伎と結びついていった。

○ 1684 年、道頓堀に人形浄瑠璃「竹本座」を旗揚げした[イ:　　]は、ドラマ性あふれる新しい語り口と革新的な演出で、一世を風靡した。

○ [イ]が生み出した独特の語り（三味線伴奏による）が、[ウ:　　]である。

○ 竹本座では、専属する劇作家[エ:　　]の「曽根崎心中」が大当たりする。それまで主流であった「時代物」に対して、このような当時の事件物を[オ:　　]という。

○ 義太夫節の三味線は [カ:　　]を用い、力強い音の世界を作り出す。

○ 義太夫節の語りを担当する[※キ:　　]が舞台の上で使う脚本のことを[※ク:　　]という。

○ 義太夫の曲節（節回しのパターン）には、次のような種類がある。

- 登場人物の会話やセリフの部分の[※ケ:　　]
- 三味線を伴った旋律的な[※コ:　　]
- それらの中間的存在で、少し節をつけて読むように語る義太夫節独特の[※サ:　　]

1 年　組　番　氏名

2.　下記の床本を見て、義太夫節（太夫と三味線）を演じてみよう

あ、冥加ないことおっしゃります。
所詮望みは叶ふまいと
思いのほか祝言の
盃するようになって
嬉しかったはたった半時

『新版歌祭文』から「野崎村」お染久松

［あらすじ］

野崎村に住む久作は、和泉石津家臣からあずかった久松を丁稚奉公に出していたが、奉公先で集金の金を紛失したため戻されてきた。

久作は許婚同士のお光（女房の連れ子）と久松の婚礼を上げようとする。しかし、久松にはかねてから恋仲のお染がいた。

それを知ったお光は髪を切り尼になる。心中する決心の二人の命を助けたいがために身を引くという、お光の健気な思いがこめられている。

3.　ビデオを見て、太夫や三味線の表現、また両者の関係などについて理解を深めよう。

メモ

4.　義太夫節の曲想や雰囲気は、太夫の語りや三味線の表現、およびどのような音楽的な要素から作り出されているでしょうか？

ワークシート２－３

ワークシート３

1. 改めて「文楽」とは･･･

江戸時代

＊ 三味線伴奏による語り(浄瑠璃)が、人形芝居と結びついて発展。(「操り浄瑠璃」)

＊ 竹本義太夫による「竹本座」が人気を呼び、浄瑠璃といえば[ア:　　]を指すほどになる。

＊ 竹本義太夫の弟子豊竹若太夫が「豊竹座」を起こし、「菅原伝授手習鑑」「義経千本桜」「仮名手本忠臣蔵」といった“三大名作”が生まれる。

☞ 人形浄瑠璃は歌舞伎をしのぐ人気となり、浄瑠璃は、歌舞伎にもさまざまな影響を与える。

＊ やがて操り浄瑠璃は廃れていく。(1765 年に豊竹座、1767 年に竹本座が終止符)

江戸時代終わり～明治時代

＊ 淡路島から大阪に出た植村文楽軒(初代)が、歌舞伎に押されて廃れつつあった人形浄瑠璃を復興させ、明治5年(1872)[イ:　　]を立ち上げる。

＊ 一方で彦六座というのも生まれたが、のちに文楽座に統合されることになり、これ以降「文楽」が人形浄瑠璃の代表的存在となる。

昭和時代～こんにち

＊「文楽」の洗練された形式･内容や特殊な舞台効果が認められるようになる。

☞ 語り(太夫) と 三味線 と 人形 が[ウ:　　]

＊ 昭和 30 年(1955)国の重要無形文化財に指定され、昭和 38 年(1963)から文楽協会によって運営されている。

＊ 昭和 59 年(1984)大阪に国立文楽劇場が開かれる。

＊ 平成 15 年(2003)「人形浄瑠璃文楽」がユネスコの世界無形遺産宣言を受ける。

1年　　組　　番 氏名

2. 『平家女護島』から「鬼界ヶ島の段」の鑑賞

＊ まず、床本から情景を読み取ろう。(どのように表現されるか予想しながら)

＊ 義太夫節独特の 3 つの表現の特徴を感じながら味わって聴こう。

☞ 詞(登場人物の会話やセリフ)

☞ 地(三味線を伴った語り)

☞ 色(少し節をつけて読むように語る

＊ 自分が受けた感情を、太夫と三味線が作り出す曲節(音楽)と関連付けて説明しよう。

3. 文楽『平家女護島』「鬼界ヶ島の段」について、批評文(この作品の良さや感じ取ったことを他の人に伝える)を書いてみよう。

＊ 義太夫節の音楽的要素や人形が作り出す表現要素、またそれらがひとつになった三業一体の世界を関連させながら

(4)　授業実践による検証・考察

①　生徒のワークシートより実践の分析

表４　生徒が作成した「ワークシート２－１」より

	長　唄			義太夫節		
課題	三味線について（音域・音色・奏法）	声について（声域・音色・唱法）	特徴についての説明	三味線について（音域・音色・奏法）	声について（声域・音色・唱法）	特徴についての説明
生徒A	リズム・速さが変わる。音が軽い。	力強い感じ。	雰囲気が変わっておもしろい。迫力がある。	切れる感じ。	話し言葉に近い。	語っている感じ。
生徒B	リズムが速い。三味線だけでも曲風が変わる。音が細い。	音がはっきりしていない。始めの方はリズムがない。音程が揺れる。太い声。	激しい感じ。	伴奏の様な感じ。リズムが遅い。	音程がはっきりしていない。音が揺れる。太い声。声域が広い。ゆっくりしている。	ゆったりした感じ。
生徒C	激しい。	比較的低い。	テンポがよい。	控えめな感じ。	かなり低くすごみがある。	全体的に語り口調。
生徒D	途中から速く、にぎやかになった。	歌が聴き取りやすい。複数で歌っている。	にぎやか。明るい。どこかで聴いたことのある感じ。	始めから入っていない。にぎやかでない。主役でない。	話しているみたい。スッタッカートみたい。	声が主役に聞こえた。
生徒E	あまり激しくない。後から激しくなった。鼓の音が出てきた。	とても高い音。何人もいた。「いよー」と言っていた。	激しくなった。途中で曲調が変わった。	一つの三味線。話の合間に入る感じ。	感情的だった。一人だった。	リズムが軽快。語っていた。ビブラートみたい。

唄い物の長唄と語り物の義太夫節を比較鑑賞したことで特徴をとらえやすかったようである。また三味線と声をそれぞれ音域（声域）、音色、奏法(唱法）の各項目に分けて聴いたことでポイントを絞って書くことができていた。

表５　生徒が作成した「ワークシート２－２」より

課題	時代物と世話物との表現の違い、および太夫と三味線の表現による義太夫節の曲想や雰囲気との関係について
生徒A	世話物より時代物の嘆いているところが激しい感じがした。迫力があった。「大落とし」はクライマックス的だから太夫・三味線も盛り上げる。
生徒B	時代物は三味線が力強く、太夫の詞も陰陽がある。世話物は三味線を弾く様な感じで詞はリズミカル。
生徒C	節を付けて語る「色」によって雰囲気が作られている。太夫と三味線が互いにカバーし、影響している。嘆き悲しむ場合に時代物は豪快に、世話物は細くスピード感がある感じで、その場の雰囲気に合っている。
生徒D	太夫の独特の語りと三味線のそれを更に盛り上げる合いの手（だんだんテンポを速くならしたり、一発で切ったり）が物語を盛り上げていた。時代物だったら嘆いていても、太夫は威勢良く三味線の激しく打楽器的な音も交えての荒々しい雰囲気だったが、世話物では太夫は流れる様に、三味線もあまり途切れることなく流暢に演奏していてまさにしっとりした雰囲気だった。
生徒E	時代物では太夫も三味線もダイナミックに強く嘆き悲しむのに対して、世話物ではしっとりとしている、などといった様に時代物は武家の力強さが地色から表れていた。太夫が力強く語り、三味線もリズミカルに力強く弾くと迫力ある演奏になり雰囲気が引き締まる。太夫と三味線が相互に関係し合うことによってより一層感情のこもった義太夫節になると思う。

義太夫節の時代物と世話物を比較鑑賞したところ、太夫の語りや三味線の表現法と義太夫節独特の表現要素から生まれる雰囲気を感じ取っていた。

表６　生徒が作成した「ワークシート２－３」より

課題	「平家女護島」『鬼界ヶ島の段』 自分が受けた感情を、太夫と三味線が作り出す曲節（音楽）と関連付けて説明せよ。
生徒A	絶望するところ ・間があるところは、ショックを受けている様に感じた。　・詞が盛り上がって三味線は激しくない。 ・声を伸ばしているところは泣いているみたい。　・同じ詞を繰り返しているところは驚いている様に感じた。
生徒B	「菩薩の大慈悲～泣き給ふ」まで地がリズミカルで、その上、色も入っている。俊寛の絶望した悲しい気持ちを感じた。「入道殿の～果てし」まで疑問形で終わる詞が同じような音、リズムで繰り返されていたので、俊寛の選ばれなかったことに対する動揺と疑問を感じた。
生徒C	この作品は大きく四つの感情が出てくる。まず一つは主人公である俊寛の都に帰れないことへの悲しみだ。この場面は三味線の演奏も激しくかなりダイナミックになっている。次に都へ帰れる喜び。この場面は主人公の声は静かだが三味線が激しく、主人公の内面の激しい起伏を表している。次に千鳥が都に帰れない悲しみだ。この辺はとても臨場感あふれる演出がなされている。最後に島に一人残った寂しさだ。とてもゆっくりしていて寂しさをかみしめているように思える。
生徒D	赦免状に名前が無く絶望して心荒れている俊寛の様子が三味線の速いテンポで連打している感じで浮かんだ。乗船するシーンで船が去る前は三味線が明るい未来を表しつつ一人残される悲しさを軽快でありつつ、どこか悲しげな三味線が演奏されていた。出港してしまい一人取り残されると悲しみと絶望にうちひしがれる俊寛の様子が、前より低い音で演奏する三味線で浮かんだ。
生徒E	感情が高ぶって興奮している時は太夫と三味線が大きな音でリズミカルに絡み合っている。また、悲しい感情を受けている時は太夫の合間に小さな音で三味線がだんだん鳴っているなと思った。場面を変える様な緊張感のあるところは、太夫のみの演奏が多かったと思う。

曲節のリズムやテンポ、強弱などの要素とストーリーならびに曲想との関連について具体的に書かれていた。

最後に鑑賞した文楽では視覚から受けたイメージが強くなり、曲節そのものから感受することを妨げていたようである（表６には示さなかった）。

② 生徒の感想より実践の分析

表７　生徒の感想より

生徒①	学習前には伝統芸能は古くさくて、今の音楽より劣るものだと思っていた。しかし、今回学ぶことでその考えが大きく変わった。伝統芸能には今の音楽にはない物があった。思ったことは聴く人の心に直接呼びかけるといった印象を受けた。今の音楽は間接的に感動を呼び起こす物だ。
生徒②	今まで日本伝統芸能については知識も少なく、興味もなかったが、今回の学習を通じて文楽のすばらしさや面白さを発見し、興味を持てる様になった。文楽とは違うが私は箏曲部なので日本の伝統音楽である箏曲を受け継いでいける様にしたいと思った。
生徒③	「文楽」について学習するまで全く興味が無く、またどんな物であるかもよく分からなかった。そしてビデオを見て文楽について理解した数日後、丁度NHKの番組で若い男の人が三味線を演奏していた。ついつい最後まで見入ってしまったが、見終わった後しばらくこの三味線を含め日本の伝統芸能で頭が一杯になった。
生徒④	授業前は日本の伝統芸能といえば、能や歌舞伎が浮かんできて文楽とは何か知らなかった。能から文楽、文楽から歌舞伎に変わっていったので文楽は能と歌舞伎の中間的な特徴があると思う。能の様に静かでゆっくりな独特の人形の動きがあり、歌舞伎でも使われる楽器、三味線を使うことで違った世界観を感じることができ、とてもおもしろいと感じることができた。
生徒⑤	「文楽」について学習する前は楽器のこと位しか知らなかったが、日本の伝統芸能に関するＶＴＲを見たりすることで人形や語り、音楽の密接な関係を感じることができ、また多くの知識を得ることができた。

事前のアンケートでこれまでの授業および芸術鑑賞会などで日本の伝統芸能に関する学習や体験をしたが、いずれも興味を感じなかった生徒の学習後の感想である。スペースの関係で一部の生徒のものしか記載できなかったが、ほぼ全員が伝統芸能（義太夫節など）のもつよさや楽しみ方を感じ取り、興味・関心をもったようである。

Ⅴ　研究のまとめ

１　研究の成果

実践研究１では、プレゼンテーションソフトを活用した、ポイントを絞った教材提示が、生徒の興味・関心を高めるのに効果的であった。

また、各自の感じたことや考えをまとめる際に、ワークシートを段階的に活用し、音楽の諸要素や用語を提示したことで、徐々に語彙が増えた。

実践研究２では、試行錯誤の上作成したワークシートの流れに沿った授業を展開したことで学習を効率的に進めることができた。さらに、視聴覚教材を取り寄せ分析を行ったり、実際に研究協力者と大阪の文楽座に足を運び、ヒントを得たりした。さらにそれらを授業実践に生かすことで効果的な指導となり、生徒の学習意欲の向上につながった。

これらの活動を継続・発展させることで、更に曲の特徴やよさを音楽用語を適切に使って批評できるようになるという手応えを感じた。

２　今後の課題

実践研究１で教材として多く扱ったポピュラー音楽は、歌詞の内容によりイメージが固定化されてしまう傾向があり、諸要素の働きによる曲の雰囲気や曲想を感じ取らせることが困難であった。また、曲想や音楽の諸要素、音楽用語の記述は徐々に増えたが、それらを関連させて記述するまでには至らなかった。今後は様々な音楽の中で曲の構造が明確であり曲想の変化や音楽の諸要素を知覚・感受しやすいもの、批評文にするために内容的に適切なものを取り上げていきたい。

実践研究２では、用語の定義や視点の整理が不十分であったため、知覚・感受したことを言葉で十分に伝えることができなかった。また、音楽的諸要素に着目させて記述を引き出していくためには、発問のあり方についても、さらなる研究が必要と考えられる。

今回行った二つの実践ではワークシートに書いた内容を話し合ったり発表したりする時間を取らなかったが、この学習が個人のものに終わるのではなく、他の人の違った感じ方に気付いたり、お互いの知

覚・感受について認め合ったり共有したりすることで、さらに深まるものと考える。

最後に、本研究を進めるに当たり御協力いただいた、福井県立丹生高等学校の坂井佳代先生ならびに福井県立藤島高等学校の小森保弘先生に心より感謝申し上げます。

《参考文献》

○文部科学省（1999）『高等学校学習指導要領解説　芸術編』
○文部省(1998)『中学校学習指導要領解説－音楽編－』教育芸術社
○西園芳信(2003)『中学校音楽科の指導と評価』暁教育図書
○田中香苗(2008)『中学校における鑑賞指導の新たな実践』平成20年度日本学校音楽教育実践学会第13回全国大会研究発表資料
○(財)音楽鑑賞教育振興会ホームページ(http://search.pioneer.co.jp/)
○文部科学省ホームページ(http://www.mext.go.jp/)
○世界の民謡・童謡ホームページ(http://www.worldfolksong.com/)
○藤田洋(2003)『文楽ハンドブック改訂版』三省堂
○田中健次(2008)『図解日本音楽史』東京堂出版
○亀岡典子(2005)『文楽ざんまい』淡交社